

図書室より「新着図書」のお知らせ

〈一般書〉

三島屋変調百物語八之続

『よって件のごとし』 宮部みゆき

生と死の狭間で語られる、一度きりの百物語。

江戸は神田の袋物屋・三島屋で行われている、風変わりな百物語。二代目の聞き手となった富次郎は、語られた話を墨絵に封じ込めることで聞き捨てとしていた。

年齢不詳の不思議な男が語る、虻の呪いから姉を救うため神々の賭場で下働きをすることになる[賽子と虻]。兄の“女房”について妹が語る[土鍋女房]。そして、おちかの出産を目前に百物語を休止することにした富次郎。最後の語り手に選んだ夫婦が〈ひとでなし〉について語る[よって件のごとし]。胸の内には納めておけぬこの世の業を語るため、人は黑白の間を訪れる一。

『先祖探偵』 新川帆立

ひとりでも寂しくない。私はもっと、強くなれる一。「あなたのご先祖様を調査いたします」風子は、母と生き別れてから20年以上野良猫のように暮らしてきた。東京は谷中銀座の路地裏で、探偵事務所をひらいている。「曾祖父を探してください」「先祖の霊のたたいかもしれないので、調べて」など様々な、先祖の調査依頼が舞い込む。宮崎、岩手、沖縄……調査に赴いた旅先で美味しい料理を楽しみながら、マイペースで仕事をしている風子。いつか、自らの母を探したいと思いながら――

『掬えば手には』 瀬尾まいこ

ちょっぴりつらい今日の向こうは、光と音があふれてる。

私は、ほくは、どうして生まれてきたんだろう？

大学生の梨木匠は平凡なことがずっと悩みだったが、中学3年のときに、エスパーのように人の心を読めるという特殊な能力に気づいた。ところが、バイト先で出会った常盤さんは、匠に心を開いてくれない。常盤さんは辛い秘密を抱えていたのだった。だれもが涙せずにはいられない、切なく暖かい物語。

『朽ちゆく庭』 伊岡瞬

かつてのセレスタウンに引っ越してきた山岸家。

中学生の真佐也は、不登校を続けていた。心配する母・裕実子とは対照的に、中堅ゼネコン勤務の父・陽一はあまり関心を示さない。そんななか真佐也は、公園でよく一人で過ごしている少女・あかりと言葉を交わすようになる。その少女には怪しげな噂が付きまとっていた。一方、陽一は急に出社しなくなり、裕実子は勤める税理士事務所の上司と“残業”という名の密会を続けていて……。

そして、山岸家の運命を変える一日が訪れる一。